

『お茶会』

鷺浦小学校では、毎年、お茶の先生をお招きして、全校でお茶会を開きます。そして、日本の伝統文化であるお茶や和菓子について教わります。このお茶会は、とてもいい会で、私は毎年楽しみにしています。

今年、私が楽しかったのは、和菓子を食べて、抹茶を飲んだことです。和菓子は、甘くてとてもおいしいです。それに、見た目がとてもかわいいです。去年は「うぐいす」で、今年は「梅」でした。どちらもきれいな色で春らしくてよかったです。そのあとに苦い抹茶を飲むと、和菓子の甘さと混ざり合い、さらにおいしく感じられました。もう一つ、私が楽しかったのは、お茶を自分でたてることです。お茶をたてるのが、私の一番の楽しみなので、毎年お茶をたてるしゅん間は、わくわくします。

逆に、難しく感じるのが二つあります。一つ目は、お茶をうまくたてることです。お茶をうまくたてるには、冷めないうちにお茶をしっかりとあわだてないといけません。私は、茶せん先の力を入れてお茶をたてましたが、うまくたえずに冷めてしまいました。二年生の長さわ君は、「おいしい。」と言ってくれたけど、本当は、「さめておいしくないな。」と思っていたのではないかと心配でした。長さわ君がたててくれたお茶は、よく泡立っていてとてもおいしかったです。二年生なのに、うまくお茶をたててくれたので、感激しました。

二つ目に難しいことは、お作法です。私は、おとし・去年とお茶会をしているはずなのに、やり始めると「どうだったかなあ。」と毎回あせってしまいます。一年生のあさの君が、おかしをもって下げる時に、ゆっくりゆっくり落ちないようにいねいにしていて、姿勢をくずしながらも一生懸命運んでいたのがおもしろくてかわいかったです。一年生は、初めてで難しかったと思うけれど、ていねいにやっていたので、私も負けられないなと思いました。それに、お茶の先生が今まで鷺浦小学校に来られて教えてくださったことを、高学年として下学年に教えてあげられたらいいなと思いました。

私は、お茶の先生が元気でいらっしやる限り、鷺浦小学校のお茶会が続いてほしいと思っています。来年のお茶会も楽しみに待っていたいです。



# わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します  
— 連載第37回 —

「きらりと光る宝」

ぼくが通う本郷西小学校では、『きらりと光る宝づくり』に取り組んでいます。『きらりと光る宝』とは、児童会と校長先生が話し合って、全校で取り組めるような目標を立て、それに向かってみんなで努力していくという活動です。

ぼくが児童会として特に取り組んだことが、『四つの基本』と『キラキラカード』です。

『四つの基本』というのは、「あいさつ」「くつそろえ」「チャイム席」「無言そうじ」のことです。この取組は、当たり前のことをきちんと行うことのできる学校にするために始まりました。そのため、児童会として毎月目標を決めて、全校に呼びかけています。元気なあいさつが増えたり、友達にくつもそろえてあげたり、授業の準備をしてから遊びに行ったり、手で合図を出しながら掃除をしたりと、素敵な姿が学校に広まりました。

『キラキラカード』は、友達の良いところを見つけた時や、友達にしてみらっとうれしかったことがあった時に、カードに書いて「キラキラの木」に掲示していくというものです。この取組は、人の良いところに気づけたり、まねしたい優しい行動を見つけたらして、「温かい心」を全校に広げるために始まりました。全校児童で三千枚を目標に取り組むことで、温かい言葉を広げることができました。

これ以外にもたくさん『きらりと光る宝づくり』に取り組んでいます。どの活動も全校で取り組むことで、目標を達成できたことをみんなで喜び合っています。これから先も、本郷西小学校の伝統として、ずっと続いていってほしいです。



※学年は投稿時の学年です。